受入先	NPO 法人頴娃おこそ会
役職	
隊員氏名	小野寺　宗貴
着任日	令和５年７月１日

活動月	令和８年１月（着任２年７カ月目）
主な活動	１　実証事業での取り組み ２　駅で開催するイベントに向けて ３　今後の展望について

１．実証事業での取り組み

令和７年 12 月に、指宿枕崎線の実証事業を行う発表を受けて、今後派生しそうなことに取り組みました。

サイクルトレインも実証事業に入っておりますが、今後を見据えた地域の方が、自転車で回遊して、もっと身近に地域を知ってほしいとの思いで作成しているアプリの実証を行いました。

私は自転車に乗るのは数年ぶり、街中で乗る折りたたみ自転車で回るという設定、他の参加者は普段から自転車に乗っており、サイクル用の自転車で回る設定で回りました。

自動車に乗っていると見過ごしてしまう田の神様や神社などを回りましたが、思いのほか坂道やアップダウンが多く、ペダルの重さを感じながら進みました。坂道を下った時の気持ちよさや、肌で感じる空気の爽やかさ、道端にさりげなくあるものを見つけて楽しむことができたのは、新たな発見でした。

駅から降りた先の移動手段の確保は、地域活性化のうえで欠かせない要素であり、楽しみながら回れることは大切なことと考えております。

２．駅で開催するイベントに向けて

西頴娃駅のにぎわいを作るために、２月及び３月に開催するイベントに向けて準備をしています。

２月は南九州市の飲食店事業者がイベント用に調製したお弁当を販売する駅弁まつり、３ 月は焼酎をメインに提供する立ち飲みイベントを開催しますが、保健所の許可などの許認可関係や、飲料の調達など、やることの多さを感じながら進めています。

駅弁の要素となっている郷土料理を学ぶための勉強会を出店者対象に開きましたが、改めて地域の良さを発見した、と聞いたときは嬉しさがこみ上げました。

３．今後の展望について

指宿枕崎線を活用した地域活性化について今後の展望を引き続き書いていきたいと思います。

「点」から「線」につなげていくために、地域の方々との連携を深めていくことです。

西頴娃駅が沿線の「点」となり、鉄道を利用しなくても楽しめる場所にすることが目標であることを書きました。人々が集まり楽しめるものとしてイベント開催が挙げられますが、継続して取り組める内容にしたいこともあり、駅での開催を控えていました。

しかし、このままでは駅や指宿枕崎線という存在自体が忘れ去られてしまう、という危機感を抱くようになり、駅の存在を知っていただくことや、人々が集まるための点を作ることが大切と考えてイベントを開催しました。

同じ思いを持たれている方々との出会いもあって出店していただけましたが、準備から開催まで多くの方々に関わっていただき、地域の方々に支えられていることを改めて認識しました。

西頴娃駅が点となるには時間がかかりますが、拠点になることを感じています。そのためには地域の方々の連携が不可欠となります。

連携を深めていくことで、線につなげていく。この思いを持って取り組んでいきます。